

平成 30 年度第 1 回白馬村子ども・子育て会議 会議録		
日時	平成 30 年 6 月 27 日（水） 開会 午後 1 時 30 分 閉会 午後 3 時 5 分	
場所	ふれあいセンター 2 階 学習室	
委 員		
白馬村教育委員会教育長職務代理	幅下守	出
しろうま保育園長	松澤ひとみ	出
白馬村子育て支援ルーム長	太田昭子	出
民生児童委員協議会主任児童委員	岩井良三	出
白馬村放課後児童クラブ指導員	中村直美	出
白馬北小学校長	木下政道	出
白馬南小学校長	倉科浩美	出
白馬幼稚園長	中村豊	出
公募委員	丸山智彦	欠
白馬幼稚園 P T A 会長	中澤小百合	出
白馬幼稚園 P T A 副会長	原田 綾	出
白馬幼稚園 P T A 役員	中村文子	出
しろうま保育園保護者会長	石山麻衣子	出
しろうま保育園保護者会役員	宮澤咲子	出
しろうま保育園保護者会役員	竹尾里枝	出
事 務 局		
子育て支援課長	田中克俊	出
子育て支援係長	松澤拓哉	出
子育て支援課主任	田中元気	出

1. 開会

田中課長が開会を宣言。

2. 幅下会長あいさつ

昨年度は、子ども・子育て支援事業計画の中間期の見直しに対して十分に審議していただき無事中間期の見直しができたことに感謝申し上げる。

本年からは、所掌事務にもなっている子ども・子育て支援に関する総合的な施策に関しても検討をいただくとともに、平成 32 年度から 5 か年の第 2 期白馬村子ども・子育て支援事業計画について本年度から委員の皆さんと検討していきたい。

3. 委嘱状交付

各委員に委嘱状の交付をした。

4. 委員及び事務局職員の紹介

各委員及び事務局の自己紹介を行った。

あわせて、白馬村子ども・子育て会議要綱第4条第2項により委員数15名中14名、過半数の出席があることから会議成立の報告をした。

5. 協議事項

(1) 会議運営に関する確認事項

事務局から資料3に基づき会議運営に関する確認事項について説明。

議長：今の説明について意見はあるか。

委員：なし

(2) 白馬村第2期子ども・子育て支援事業計画策定について

事務局から資料4に基づき第2期子ども・子育て支援事業計画策定についての趣旨並びに、スケジュール案について説明。

議長：事務局からの説明について質問、意見はあるか。

委員：村の認定こども園に対しての考えについて伺いたい

事務局：直ちに、村内にある2園について移行する等の考えはない。

委員：その他質疑は無し

議長：本件について賛成の方は挙手願います。挙手全員。スケジュールについては、本案のとおりいたします。

(3) 各子育て機関からの報告について

事務局から報告方法について説明。また、子ども・子育て支援事業計画策定に今年度より関係機関や保護者の意見を取り入れ策定をしてみたい。そのために、関係機関から現状や課題について報告をしていただきたい旨を説明。

その後、次第に掲載の順番で資料5に基づき関係機関から説明。

議長：説明について質問、意見はあるか。

委員：白馬幼稚園に質問です。長期休みについてお聞きしたい。働いている親として、どうしても夏や冬に長期休みがあると困ってしまう。幼稚園として、長期休みの対応についてお伺いしたい。

委員：長期休みは確かに数日間あります。その補完的役割については、子育て支援ルームの一時保育に非常に助けられている。

委員：放課後児童クラブはなぜ2か所だけなのか

事務局：厚生労働省の基準により、1学校区に1か所は設置する必要があるため、白馬村は2か所設置している。

委員：では、学校の図書館や校庭を開放する方法は無いのか。

事務局：校庭は屋外のため児童クラブとしての利用は難しいと考える。また、図書館は図書をする場所であり、適さないと考える。空き教室を利用するには、学校と調整さえできれば可能かと考えます。

委員：学校の空き教室を利用するには、管理の問題があり簡単に利用することは難しい。

委員：新しい複合施設が出来た場合、児童クラブがそちらに入ることはあり得るのか。

事務局：児童クラブとして入るのか。児童館として入るのか、もしくは両方とするのかこれから検討していかなければならない。

委員：現在北小学校児童クラブの指導員の人数は何名体制。

委員：2名体制。

委員：きょうだい居て、小学生と未就学児がいる場合迎えに行く場所が、支援ルームと児童クラブの複数の場所になってしまうので、結構大変である。一か所にするのが良いかは別であるが、一緒の場所にあると大変便利だと思う。

事務局：児童クラブの場合は、児童が自分で移動していただく必要があるため安全面等から学校から近くの場所である必要がある。

委員：学校の方針として、スキーのみの記載しかないが、スノーボードの競技もあり取り組む考えはないのか。

委員：昔からの伝統的な取組として残っているのではないかと。ただ、要望があるのは承る。

委員：スノースポーツ等は授業を通して活発に取り組ませてもらっているが、反面、文化的な部分や芸術的部分が置き去りにされている事はないが、スキーが出来ない、体を動かすことが得意ではない子どもは劣等生になりやすいのではないかと。字や絵を描く、音楽を楽しむなど、文化的な部分を高学年になるに従い選択できると冬が憂鬱にならずに良いのではないかと考える。白馬でも、スキー以外の部分が伸ばせる環境作りが必要ではないか。

事務局：スキーに関しては、地域特有のスポーツとして確かに偏っている部分がある。スノーボードの話がありましたが、中学校のスキー教室では選択出来ると思う。

委員：確かに冬は、スキーが多いが、夏はプールが多い。学校教育としてはバランスがとれていると思う。

委員：小児科オンラインの小児科医はどこで対応しているのか。

事務局：業者委託で行っている。

7. 閉会

田中課長が閉会を宣言した。